

J.S.バッハ カンタータ第 71 番「神は私の王」(Gott ist mein König) BWV.71

1685 年生まれのパッハは 1703 年 4 月、18 歳でヴァイマル宮廷楽団のヴァイオリン奏者として就職し、同年 8 月にアルンシュタット新教会のオルガニストに転職した。ところがここで、聖歌隊員の生徒と喧嘩沙汰となったり、一ヶ月の休暇を申請してリューベックまでブクステフーデの演奏を聴きに行ったら休暇期間を大幅にオーバーしてしまったりと、数々の問題を起こし、次の職場を探すことになる。

するとそこに 1706 年 12 月、ミュールハウゼン市の聖ブラジウス教会オルガニストだった J.G.アーレが死去し、同市参事会がその後任を募集する、という話を聞きつけたパッハはこれに応募し、1707 年 4 月 24 日の復活祭の日に試験演奏を行うこととなった。そこで演奏されたのがカンタータ第 4 番「キリストは死の縄目につながれたり」である、という説を、口短調ミサの研究で知られるクリストフ・ヴォルフが説き、礪山雅氏もその著書『パッハ＝魂のエヴァンゲリスト』に書かれている。もしそうであれば、これが現存最古のパッハ作のカンタータということになる。

パッハはこのミュールハウゼンの職を翌 08 年 6 月までつとめた。しかし当時、同市の教会には「正統主義と敬虔主義の対立」という問題があった。

正統主義がルター以来の伝統に忠実に、神を賛美する音楽の力を重視していたのに対し、敬虔主義は、霊的体験を重視するあまり、礼拝における音楽は黙想を妨げるものとして軽視していた。

ミュールハウゼン市内の 2 つの教会のうち、聖マリア教会のアイルマー牧師が正統主義なのに対し、パッハの上司である聖ブラジウス教会のフローネ牧師は敬虔主義だった。パッハは当然、正統主義であるから、上司とは常に対立状態にあった。08 年 6 月 25 日にパッハが市参事会に提出した辞職願にも、「悶着を起こさずに事が運んだためしは無かった」と書いているほどである。結局、翌 7 月にパッハはヴァイマルの宮廷オルガニストに転じた。

パッハがミュールハウゼンで書いたカンタータには、まず 07 年 7 月の第 131 番「深き淵より」がある。これは聖マリア教会アイルマー牧師の依頼で、5 月末に起こった同市の大火後の悔い改めの礼拝用に書かれたものである。8 月には母方の伯父の葬儀のために第 106 番「神の時はいと良き時」を書いた。

その後、翌 08 年 2 月に、これまた聖マリア教会で行われた市参事会員交代式のために書いたのが、この第 71 番「神はいにしえより我が王なり」である。その後はミュールハウゼンを去る直前 6 月 5 日、前任地アルンシュタットのシュタウバー牧師（パッハの結婚式を司式した）の婚礼に出席して、そこで第 196 番「主は我らを御心に留めたまえり」を演奏した。

ミュールハウゼン時代の作とされるパッハのカンタータは、以上 5 曲だけである。つまり彼が勤めた聖ブラジウス教会用のカンタータは第 4 番以外には 1 曲も残っていない。これは辞職願に書かれた「悶着」のためであろう。

このように、上司の牧師とは対立していたパッハだが、彼の採用を決めたミュールハウゼン市参事会との関係は良好だったようだ。というのも翌 09 年の参事会員交代式のためのカンタータも、ヴァイマルに転職していたパッハが依頼を受けて作曲しているからである（ただしその曲は残っていない）。

この第 71 番は、初演直後にミュールハウゼン市が印刷出版しており、パッハの生前に印刷譜が出版された唯一のカンタータでもある。自筆総譜やオリジナルのパート譜も伝承されており、資料の保存状態がきわめて良好である。

全 7 曲からなり、オーケストラ編成もトランペット 3 本とティンパニを含む大規模なものになっている。歌詞は詩篇 74 をメインとし、これにその他の聖句や作者不詳の自由詩を付加したものである。以下、簡単に内容を紹介する。

第 1 曲----詩篇 74:12。神は王である。

第 2 曲----サムエル記、およびヘルマン作のコラールによって老齢で退職した参事会員をねぎらう。

第 3 曲----申命記・創世記によって、参事会に残留する長老たちを励ます。

第 4 曲----詩篇 74:16-17。神の創造したこの世の摂理。これに従った政治を新しい参事会にもとめる。

第 5 曲----自由詩。戦乱のおいても平和を守る神の力を説く。

第 6 曲----詩篇 74:19。神は自分の鳩の魂を敵に引き渡すことはない。

第 7 曲----自由詩。新しい参事会の統治が皇帝ヨーゼフも喜ばせるだろう。

※第 4 曲の「戦乱」は、ヨーロッパ主要国のほとんどが参戦していたスペイン継承戦争(1701-14)のことか。

第 7 曲の「ヨーゼフ」とは、オーストリア・ハプスブルク家の神聖ローマ皇帝ヨーゼフ 1 世(1705-14)のこと。

解説：山岸 健一

J.S.バッハ カンタータ第 71 番「神は私の王」(Gott ist mein König) BWV.71 対訳

1. 合唱

<詩篇 74:12>

Gott ist mein König von altersher,
der alle Hilfe tut, so auf Erden geschicht.

神は昔から私の王、
彼は地上に起こった全ての助けを行ってください。

2. アリア(T)

<サムエル記下 19:38>

&コラール(S)

ヨハン・ヘールマン作" O Gott, du frommer Gott " (おお神よ、汝正しき神よ) 第 6 節 (枠内)

Ich bin nun achtzig Jahr,
warum soll dein Knecht sich mehr beschweren?

私は今や八十歳だ、
なぜ、これ以上、汝の下僕に重荷を負わせるのですか？

Soll ich auf dieser Welt
mein Leben höher bringen,
durch manchen sauren Tritt
hindurch ins Alter dringen,

この世で私が
年齢を重ねて行き
多くの困難な歩みを通して
高齢に達するべきであるというならば、

Ich will umkehren, dass ich sterbe in meiner Stadt,
bei meines Vaters und meiner Mutter Grab.

私は戻ろう、自分の町で死ぬために、
私の父母の墓の側で。

so gib Geduld, für Sünd
und Schanden mich bewahr,
auf dass ich tragen mag
mit Ehren graues Haar.

どうぞ忍耐をお与えください、
罪と恥から私を守ってください、
そうして私が
栄誉のうちに白髪を戴けるように。

3. 合唱

<申命記 33:25> <創世記 21:22>

Dein Alter sei wie deine Jugend,
und Gott ist mit dir in allem, das du tust.

あなたの老後が、若い頃のごとくありますように。
神はあなたが為す全てにおいて、あなたと共にいます。

4. アリオゾ(B)

<詩篇 74:16-17>

Tag und Nacht ist dein.
du machest, dass beide, Sonn und Gestirn,
ihren gewissen Lauf haben.
Du setzest einem jeglichen Lande seine Grenze.

昼も夜もあなたのもの。
あなたは、太陽と星の両方が
確かな進路を持つように創造されました。
あなたはそれぞれの地にその境を設置しました。

5. アリア(A)

<作者不詳の自由詩>

Durch mächtige Kraft
erhältst du unsre Grenzen,
hier muss der Friede glänzen,
wenn Mord und Kriegessturm
sich allerort erhebt.
Wenn Kron und Zepter bebt,
hast du das Heil geschafft
durch mächtige Krat!

強大な力によって
あなたは我らの境を保持してください。
ここでは平和が輝くに違いない、
たとえ殺戮と戦いの嵐が
いたるところに起こっても。
もし王冠と王笏が揺らいでも
あなたはすでに救済を生み出しておられます、
強大な力によって。

6. 合唱

<詩篇 74:19>

Du wollest dem Feinde nicht geben
die Seele deiner Turteltauben.

敵に与えないでください、
あなたの鳩の魂を。

7. 合唱

Das neue Regiment
auf jeglichen Wegen
bekröne mit Segen!
Friede, Ruh und Wohlergehen
müsse stets zur Seite stehen
dem neuen Regiment.

新しい統治を
どの過程においても
祝福をもって飾って下さい。
平和と安心と繁栄が
必ずや、常に守り立ててください、
新しい統治を。

Glück, Heil und großer Sieg
muss täglich von neuen
Dich, Joseph, erfreuen,
dass an allen Ort und Landen
ganz beständig sei vorhanden
Glück, Heil und großer Sieg!

幸運と救済と大きな勝利が
日々に新たに
あなた、皇帝ヨーゼフを喜ばせるに違いありません。
すべての場所と土地において
全く変わることなくありますように、
幸運と救済と大きな勝利が。

訳：山岸 健一

ハインリヒ・シュッツ (1585-1672)

「Musikalische Exequien (音楽による葬送)」op.7, SWV279-281

シュッツはバッハのちょうど百年前に生まれた「ドイツ音楽の父」と言うべき存在である。

1609 年、ヴェネツィアに留学。聖マルコ大聖堂の作曲家・オルガニストであったジョヴァンニ・ガブリエリに師事し、複合唱様式やコンチェルト様式を学んだ。これらの様式は聖マルコ大聖堂特有の空間に由来する。この聖堂内では、別々の聖歌隊ないしは合奏団が、筋向いに相對することになるため、聖歌隊が互いに歌い交わすことで素晴らしい効果が得られるのだ。

ガブリエリの死後 1613 年にドイツに戻り、15 年からザクセン選帝侯のドレスデン宮廷楽団(現シュターツカペレ・ドレスデン、現存最古のオーケストラ)の指揮を任せられ、17 年には宮廷作曲家となった。よって劇音楽やバレエなども多く作曲したはずだが、それらはほとんど残っていない。

現存する彼の作品の大部分は宗教音楽である。ドレスデン聖十字架教会には彼のレリーフが掲げられており、当然指揮もしたであろうが、クロイツカントル(聖十字架合唱団指揮者)には就任しなかった。

1618 年に始まったルター派 vs カトリックの三十年戦争は、「Memento mori (死を忘れるな)」をモットーとするバロック時代を象徴する大事件であった。14 世紀同様この頃もまたペストが流行し、特にドイツでは世界史でいうところの「17 世紀の危機」の時代となった。シュッツも戦争中に多くの家族親族を亡くしている。

また戦争中の 1628 年から約 1 年、シュッツは再びヴェネツィアを訪れ、師ガブリエリの後をうけて聖マルコ大聖堂楽長となっていたモンテヴェルディの新しい音楽にも触れている。器楽伴奏を伴い単旋律で聴き取りやすく歌詞を歌うモノディ様式はまずオペラに用いられ、さらに彼の「聖母マリアのための夕べの祈り」によって宗教音楽にも用いられるようになっていた。

「音楽による葬送」には、シュッツがヴェネツィアで学んだ上述のさまざまな様式が用いられている。

この曲は、シュッツの故郷ケストリッツの領主ハインリヒ・ポストウムス・フォン・ロイス公(Heinrich Postums von Reuss)の葬儀のために作曲された。公はザクセン選帝侯の宮廷の賓客であり、シュッツの芸術のよき理解者でもあった。

死期を悟った公は、美しい装飾がなされた自分の棺に聖句とコラルの詞を刻み込ませ(右下の写真)、シュッツにそれらの詞を使って作曲するように依頼したのである。公の葬儀は 1636 年 2 月 4 日に行われた。

曲は 3 部に分かれている。

- ・第 1 部「ドイツ葬送ミサの形式によるコンツェルト」SWV.279
- ・第 2 部「モテット」SWV.280
- ・第 3 部「シメオンの讃歌(カンティクム)」SWV.281

現在それぞれに SWV 番号が付されているが、シュッツが生前にこの曲を出版した時はまとめて「作品 7」としていた。



第 1 部は、Kyrie・Gloria のみからなるルター派のミサ・ブレヴィスの形式による。重唱・独唱曲と合唱曲が交互に演奏される。

Kyrie 部分の合唱は父・子・聖霊それぞれへの呼びかけになっている。

しかし Gloria 部分は、ミサのそれとは内容が全く異なっている。曲の大半を占めるこの部分はシンメトリー構造になっている。また、続く第 2 部・第 3 部への伏線も張られている。次ページに Gloria 部分の構造を表で示す。

Gloria には、ソロ & 合唱の組が前後半 4 つずつあり、前後半の間にはソロのみの聖句 2 曲組がある。

前半最初と後半最後には、ルターの同じコラルが置かれている。同様に前半 2 番目と 4 番目には、ヘルムボルトの同じコラルが置かれている。音楽もそれぞれ同一の素材で作曲されており、聴く者にも枠構造が感知できる点は、ブラームスの「ドイツ・レクイエム」に通ずる技法である。

前後半の間の聖句 2 曲組のうち、第 18 曲の歌詞も、ブラームスが「ドイツ・レクイエム」第 3 楽章で用いた「正しき人の魂は主の手の中にあり」(知恵の書)である。

後半最初の組は、第 19-20 曲の歌詞が詩篇第 73 番で、これは第 2 部モテットの歌詞と同じになっている。続く第 21 曲合唱はルターのコラル「平安と喜びもて我往かん」の最終節だが、このコラルは第 3 部の合唱の歌詞である「シメオンの讃歌」をルターが敷衍して作ったものである

第 1 部 Gloria のシンメトリー構造

8	T	ヨハネ福音書 3:16	Also hat Gott die Welt geliebt,	
9	SST	"		
10	コラール	ルター	" Nun freut euch lieben Christen g'mein "	第 5 節
11	ST	ヨハネ第 1 書 1:7		
12	コラール	ヘルムボルト	" Nun lasst uns Gott, dem Herren, "	第 6 節
13	SB	フィリピ書 3:20-21		
14	コラール	レオン	" Ich hab mein Sach Gott heimgestellt "	第 3 節
15	TT	イザヤ書 1:18		
16	コラール	ヘルムボルト	" Nun lasst uns Gott, dem Herren, "	第 5 節
17	A	イザヤ書 26:20		
18	SS	知恵の書 3:1-3	Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand,	
19	T	詩編 73:25	Herr, wenn ich nur dich habe,	} → 第 2 部
20	ATTB	" 73:26	wenn mir gleich Leib und Seele verschmacht,	
21	コラール	ルター	" Mit Fried und Freud ich fahr dahin "	第 4 節 → 第 3 部
22	BB	詩編 90:10		
23	コラール	ギガス	" Ach, wie elend ist unser Zeit "	第 1 節
24	T	ヨブ記 19:25		} 3 拍子系 に変化する
25	コラール	ヘルマン	" Wenn mein Stündlein vorhanden ist "	
26	SSATTB	創世記 32:27	Herr, ich lasse dich nichts,	
27	コラール	ルター	" Nun freut euch lieben Christen g'mein "	第 7 節

第 2 部「モテット」は、詩編第 73 番を 2 つの 4 部合唱によるヴェネツィア仕込みの複合唱形式で壮麗に歌い上げる。

「主よ、あなたさえ得られるなら私は何も気にかけない。あなたはいつも私も心の慰め。」

第 3 部はコンチェルト形式。

第 1 グループ(合唱)は「シメオンの讃歌」を歌う。シメオンの物語は「ルカによる福音書」第 2 章 25-32 節に書かれている。

信仰の厚いシメオンは、救世主に会うまでは決して死なない、とのお告げを受けていた。彼が神殿の境内に入った時、ちょうど幼子イエスを連れた両親も入ってきた。その際、シメオンが幼子イエスを抱いて、神を讃えた言葉がこの聖歌である（ラテン語では「Nunc dimittis」）。

「主よ、今こそ私を安らかに去らせて下さいます。私は救い主を見たのですから。

その方は全民族のためにあなたが用意した異邦人を照らす光、イスラエルの賞賛の光。」

これと掛け合う第 2 グループは、シュッツによって、ソプラノ・ソロ 2 名が天使セラフィム、バスのソロは祝福された魂と説明されている。歌詞はブームスのドイツ・レクイエム第 7 楽章と同じ「主にあって死ぬ者は幸せである」（黙示録 14:13）と、Gloria 第 1 部中盤で用いた「彼らは主の手中にあり...」（知恵の書）を歌う。

第 1 部と同じく終盤でいったん 3 拍子系に変化して、第 1 合唱が「異邦人を照らす光」と歌うと、第 2 グループも同じ音型で「主の手中にあり」と唱和する。最後、第 2 グループは sterben（死ぬ）と歌った後沈黙し、第 1 合唱が「イスラエルの誉れ」と歌って全曲が閉じられる。

解説：山岸 健一

仙台宗教音楽合唱団第 37 回演奏会(2017)のために書いた解説を改訂したもの

シユツツ 「Musikalische Exequien (音楽による葬送)」 対訳

第1部. ドイツ葬送ミサの形式によるコンツェルト SWV 279

< KYRIE >

1. 先唱(T) <第2曲まで、ヨブ記 1:21>

Nacket bin ich von Mutterleibe kommen.

私は裸で母の胎内から生まれ来た。

2. Soli(TTB)

Nacket werde ich wiederum dahinfahren,
der Herr hat's gegeben, der Herr hat's genommen,
der Name des Herren sei gelobet.

私は再び裸で去らう、
主は与えたものを取り去るのだ
主の名よ、賛美されよ

3. 合唱 (=Kyrie eleison)

Herr Gott Vater im Himmel, erbarm dich über uns.

主なる神、天の父よ、我らを憐れみたまえ。

4. Soli(SST) <1行目、フィリピン人への手紙 1:21> <2行目、ヨハネ福音書 1:29>

Christus ist mein Leben, Sterben ist mein Gewinn.
Siehe, das ist Gottes Lamm, das der Welt Sünde trägt.

キリストは私の命であり、死は私の利益なのだ。
見よ、これが世の罪を取り去る神の子羊である。

5. 合唱 (=Christe eleison)

Jesu Christe, Gottes Sohn, erbarm dich über uns.

イエス・キリスト、神の子よ、我らを憐れみたまえ。

6. Soli(ABB) <ローマ人への手紙 14:8>

Leben wir, so leben wir dem Herren.
Sterben wir, so sterben wir dem Herren,
darum wir leben oder sterben,
so sind wir des Herren.

我らが生きる、それは主のために生きることである。
我らが死ぬ、それは主のために死ぬことである。
それ故、生きていようが死んでいようが
結局、我らは主のものである、ということなのだ。

7. 合唱 (=Kyrie eleison)

Herr Gott heiliger Geist, erbarm dich über uns.

主なる神、聖霊よ、我らを憐れみたまえ。

< GLORIA >

8. 先唱(T) <第9曲まで、ヨハネ福音書 3:16>

Also hat Gott die Welt geliebet,
dass er seinen eingebornen Sohn gab.

そんなにも神は世を愛されたのだ、
彼の一人子として生まれた御子を与えたほどに。

9. Soli(SSATTB)

Auf dass alle, die an ihn gläuben,
nicht verloren werden, sondern das ewige Leben haben.

それは、御子を信ずる者皆が
失われることなく、永遠の命を持つためである。

10. 合唱 ルター作コラール“Nun freut euch lieben Christen g'mein”(今ぞ喜べ、汝ら愛するキリスト者の輩よ) 第5節

Er sprach zu seinem lieben Sohn:
die Zeit ist hie zu erbarmen,
fahr hin, mein's Herzens werte Kron
und sei das Heil der Armen,
und hilf ihn aus der Sünden Not,
erwürg für sie den bittern Tod
und lass sie mit dir leben.

神は彼の愛する子に語った。
「憐れみの時が来た。
行け、私の心の貴重な冠よ、
そして貧しい人々の救いとなり、
彼らを罪の苦しみから救い出せ、
彼らのために辛い死を絞め殺せ、
そして彼らをして汝とともに生きさせよ。」

1 1 . Soli(ST) <ヨハネ第 1 の手紙 1:7>

Das Blut Jesu Christi, des Sohnes Gottes,
machet uns rein von allen Sünden.

神の子、イエス・キリストの血は
我らを全ての罪から清めてくれる。

1 2 . 合唱 ヘルムボルト作コラール“ Nun lasst uns Gott, dem Herren,” (今こそ主なる神に感謝を捧げん) 第 6 節

Durch ihn ist uns vergeben die Sünd,
geschenkt das Leben,
im Himmel soll'n wir haben,
o Gott, wie große Gaben.

キリストによって我らの罪は許され
我らに命が与えられる。
天において我らは
おお神よ、何と大きな贈り物を得ることでしょう。

1 3 . Soli(SB) <フィリピン人への手紙 3:20-21>

Unser Wandel ist im Himmel,
von dannen wir auch warten
des Heilandes Jesu Christi, des Herren,
welcher unsern nichtigen Leib verklären wird,
dass er ähnlich werde seinem verklärten Leibe.

我らの生活は天にある。
そこから、我らはまた
救世主なる主イエス・キリストを待つ。
主は、我らのつまらない身体を変容させるだろう、
彼の神々しい身体と同じになるように。

1 4 . 合唱 レオン作コラール“ Ich hab mein Sach Gott heimgestellt ” (我は我が事を神に委ね) 第 3 節

Es ist allhier ein Jammertal,
Angst, Not und Trübsal überall,
des Bleibens ist ein kleine Zeit,
voller Mühseligkeit,
und wer's bedenkt, ist immer im Streit.

全くここは嘆きの谷、
至る所に不安・苦悩・悲嘆がある。
留まるのはほんの少しの時だが、
艱難辛苦に満ちており
それを思う者は常に争いの中にあることとなる。

1 5 . Soli(TT) <イザヤ書 1:18>

Wenn eure Sünde gleich blutrot wäre,
soll sie doch schneeweiß werden,
wenn sie gleich ist wie rosinfarb,
soll sie doch wie Wolle werden.

もし汝らの罪が血のように赤かろうとも
しかしその罪は雪のように白くなるだろう。
もしその罪が干しぶどうの色のものであろうとも、
しかしその罪は羊毛のようになるだろう。

1 6 . 合唱 ヘルムボルト作コラール“ Nun lasst uns Gott, dem Herren,” (今こそ主なる神に感謝を捧げん) 第 5 節

Sein Wort, sein Tauf, sein Nachtmahl
dient wider allen Unfall,
der Heilige Geist im Glauben
lehrt uns darauf vertrauen.

キリストの言葉・洗礼・晩餐は
あらゆる災いに役立ちます。
聖霊は信仰の中で
それらを頼りにするよう教えてください。

1 7 . Solo(A) <イザヤ書 26:20>

Gehe hin, mein Volk, in eine Kammer
und schleuß die Tür nach dir zu,
verbirge dich einen kleinen Augenblick,
bis der Zorn vorrübergehe.

我が民よ、部屋の中に入れ、
そして汝の後ろの扉を閉めよ、
少しの間、身を隠していよ、
怒りが通り過ぎるまで。

1 8 . Soli(SSB) <知恵の書 3:1-3>

Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand
und keine Qual rühret sie an,
für den Unverständigen
werden sie angesehen, als stürben sie,
und ihr Abschied wird für eine Pein gerechnet,
und ihr Hinfahren für Verderben,
aber sie sind in Frieden.

正しい者たちの魂は神の手の中にあり、
いかなる苦悩も彼らに触れることはない。
思慮の無い者にとっては
彼らはあたかも死んでいるかのように見えるだろう、
そして彼らの告別は苦痛として数えられ、
彼らの死去は破滅と見なされるだろう。
しかし彼らは平安の中にいるのだ。

19. Solo(T) <詩篇 73:25>

Herr, wenn ich nur dich habe,
so frage ich nichts nach Himmel und Erden.

主よ、もしあなただけ得られるならば
天や地のことについて何も尋ね求めはしない。

20. Soli(ATTB) <詩篇 73:26>

Wenn mir gleich Leib und Seele verschmacht,
so bist du Gott allzeit
meines Herzens Trost und mein Teil.

たとえ私の身体と魂がともに弱り果てようと
神よ、あなたは常に
私の心の慰めであり、私の取り分である。

21. 合唱 ルター作コラール“ Mit Fried und Freud ich fahr dahin ” (平安と喜びをもって我は行く) 第4節

Er ist das Heil und selig Licht für die Heiden,
zu erleuchten, die dich kennen nicht und zu weiden,
er ist seines Volks Israel
der Preis, Ehr, Freud und Wonne.

主は異邦人にとって、救いにして幸いなる光、
あなたを知らない人々を照らし養ってくださる。
主は、彼の民イスラエルの
賞賛、栄誉、歓喜、そして喜びである。

22. Soli(BB) <詩篇 90:10>

Unser Leben währet siebzig Jahr,
und wenn's hoch kömmt, so sind's achtzig Jahr,
und wenn es köstlich gewesen ist,
so ist es Müh und Arbeit gewesen.

我らの人生は70年だろう、
もし長生きしても80年だ。
もしその人生が貴重なものだったとしても、
結局は徒労と労苦におわるのだ。

23. 合唱 ギガス作コラール“ Ach, wie elend ist unser Zeit ” (ああ、何とみじめな我らの時) 第1節

Ach, wie elend ist unser Zeit allhier auf dieser Erden,
gar bald der Mensch darnieder leit,
wir müssen alle sterben,
allhier in diesem Jammertal ist Müh und Arbeit überall,
auch wenn dir's wohl gellinget.

ああ、この地上での我らの時は何と惨めなことか、
人はすぐに病に倒れ
我らは皆、死ななくてはならない
この嘆きの谷には、至る所に徒労と労苦があるのだ、
たとえもし、あなたの人生が十分成功していても。

24. Solo(T) <ヨブ記 19:25-26>

Ich weiß, dass mein Erlöser lebt,
und er wird mich hernach aus der Erden auferwecken,
und werde darnach mit dieser meiner Haut umgeben werden
und werde in meinem Fleisch Gott sehen.

私は知っている、私の救世主は生きている、と。
そして彼は、後に、私を地から甦らせるだろう。
その後私は、この私の皮を着せられ
私の身体のまま神を見るだろう。

25. 合唱 ヘルマン作コラール“ Wenn mein Stündlein vorhanden ist ” (私の死ぬ時が来たらば) 第4節

Weil du vom Tod erstanden bist,
werd ich im Grab nicht bleiben,
mein höchster Trost dein Auffahrt ist,
Todsforcht kannst du vertreiben,
denn wo du bist, da komm ich hin,
dass ich stets bei dir leb und bin,
drum fahr ich hin mit Freuden.

あなたが死から甦ったのですから、
私も墓の中にとどまることはないでしょう。
あなたの昇天は私の最高の慰めです、
あなたは死の恐れを払いのけることができます。
なぜなら、あなたがいる所、そこに私は行き、
それで私は常にあなたの側に行き、在るのですから。
それ故、私は喜びとともに死に逝きましよう。

26. Soli(SSATTB) <創世記 32:27>

Herr, ich lasse dich nicht,
du segnest mich denn.

主よ、私はあなたを手放しません
あなたが私を祝福してくださらない限りは。

27. 合唱

ルター作コラール“ Nun freut euch lieben Christen g'mein ”(今ぞ喜べ、汝ら愛するキリスト者の輩よ) 第7節

Er sprach zu mir:
halt dich an mich,
es soll dir itzt gelingen,
ich geb mich selber ganz für dich,
da will ich für dich ringen,
den Tod verschlingt das Leben mein,
mein Unschuld trägt die Sünden dein,
da bist du selig worden.

主は私に言われた。
「私に頼りすがっていいよ、
今や、事はお前にとって上手くいくであろう。
私はお前のために、私自身の全てを与え、
そしてお前のために戦おう。
私の生は死を飲み込み、
私の無実はお前の罪を負う。
そしてお前は幸福になったのだ。」

第2部. モテット (二重合唱) SWV 280

Herr, wenn ich nur dich habe,
so frage ich nichts nach Himmel und Erden.
Wenn mir gleich Leib und Seele verschmacht',
so bist du doch, Gott,
allezeit meines Herzens Trost und mein Teil.

主よ、もしあなただけ得られるならば
天や地のことについて何も尋ね求めはしない。
たとえ私の身体と魂がともに弱り果てようとも
神よ、あなたは常に
私の心の慰めであり、私の取り分である。

<詩篇 73:25-26>

第3部. シメオンの讃歌(カンティクム) SWV 281

I. 合唱

<ルカ福音書 2:29-32> = シメオンの讃歌

Herr, nun lässest du deinen Diener (この行、T先唱)
in Frieden fahren,
wie du gesagt hast.
Denn meine Augen haben deinen Heiland gesehen,
welchen du bereitet hast für allen Völkern, ein Licht,
zu erleuchten die Heiden
und zum Preis deines Volks Israel.

主よ、あなたは今や、あなたの下僕をして
安らかに逝かせてくれます、
かつてあなたが語っていたように。
なぜなら私の眼が、あなたの救い主を見たのだから。
その方は、あなたが全民族のために用意した光、
すなわち、異邦人を照らすための(光)
そしてあなたの民イスラエルの賞賛のための(光です)

II. Soli(SSB)

Selig sind die Toten, die in dem Herren sterben,
sie ruhen von ihrer Arbeit
und ihre Werke folgen ihnen nach.

主にあつて死ぬ者たちは幸いである。
彼らは労苦から解かれて休み、
その仕業は彼らについていく。

<黙示録 14:13(一部略)>

Sie sind in der Hand des Herren
und keine Qual rühret sie. ※

彼らは主の手の中にあり
いかなる苦悩も彼らに触れることはない。

<知恵の書 3:1:(短縮化)>

訳：山岸 健一